レポートに役立つ

参考文献 & 引用

★自分の書いたものが思いつきや盗作でないことを示すために、**「参考文献」**と**「引用」**を示す必要があります。

★「著者名（編者名）」「出版年」「タイトル」は分野を問わず必須ですが、その示し方は様々です。専門誌の論文の示し方を例に見てみましょう。

1．言語学（『言語研究』より）
服部四郎 (1976)「上代日本語の母音体系と母音調和」『言語』5 (6): 2-14.

2．歴史学（『歴史学研究』より）
上原専禄「歴史教育の問題点」（『教育』1953 年 1 月号）

3．経済学（『アジア経済』より）
川中豪 2009.「新興民主主義の安定をめぐる理論の展開」『アジア経済』第 50 巻 第 12 号 55-75.

製作：図書館 4F@ラボ，学習相談デスク

H　P: **http://www.tufs.ac.jp/common/library/lc/**

BLOG: **http://www.tufs.ac.jp/blog/st/g/languageconcierge_tufs/**

超非公式 TWITTER: **@tufs_fan**

参考文献書き方の一例

★実際のレポート作成時には先生に確認する、 学術雑誌の参考文献一覧を真似るなどしまょう。
★様々な書式を混ぜることなく、一貫して示すことが重要です。

和書(単著)	宮田幸一␣(1948)『日本語文法の輪郭』三省堂
和書(共著)	亀井孝・河野六郎・千野栄一編␣(1988)『言語学大辞典␣第 6 巻␣術語編』三省堂
洋書(単著)	Sapir,␣E.␣(1921),␣*Language: an introduction to the study of speech.*␣Harcourt,␣Brace and Longman.
洋書(共著)	Deci, ␣ E. ␣ L. ␣ & ␣ Ryan, ␣ R. ␣ M. ␣ (1985), ␣ *Intrisic motivation and self-determination in human behavior.*␣New York, ␣Plenum.
雑誌論文	中山健一␣(2006)「進展過程のアスペクト的意味を表す「してくる」「していく」形式について」『日本研究教育年報』10 号,␣pp.59-99,␣東京外国語大学日本課程・留学生課共著.
個人論文	Johnson,␣M.␣(2004),␣"Communicative competitive versus interactional competence"␣*A philosophy of second language acquisition.*␣pp.85-99,␣Yale University Press.
	三上章␣(1970)「5. コソアド抄」『文法小論集』pp.145-154,␣くろしお出版
本の一部	宮島達夫␣(1996)「カテゴリー的多義性」鈴木泰・角田太作␣編『日本語文法の諸問題』pp.29-52,␣ひつじ書房
翻訳	Sapir,␣E.␣(1921),␣*Language: an introduction to the study of speech*.␣Brace and Company␣[翻訳：安藤貞雄␣(1998)『言語−ことばの研究序説−』岩波書店]
web	坂本和夫編「パルスレーザーアブレーションにおけるドロップレットフリー薄膜の作製技術」␣ http://jstore.jst.go.jp/cgi-bin/techeye/detail.cgi?techeye_id= ␣(accessed:␣2006-06-23).
新聞	朝日新聞「社説」1998 年 12 月 23 日付朝刊,␣12A␣(2).
	日本経済新聞「外国人活用を人材各社支援」2005 年 10 月 19 日付朝刊,␣14␣(7).

参照：
独立行政法人科学技術振興機構「SIST 科学技術情報流通技術基準」http://sti.jst.go.jp/sist/index.html (accessed: 2012-11-28).
中山健一編 (2010)『外大生のための日本語研究ガイドブック』東京外国語大学グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」

【レポート執筆に役立つ!! 引用文の示し方】

引用の二大形式

一．　引用：自分の主張を根拠づける言葉、文章を「そっくりそのまま持ってくる」

二．　パラフレーズ：自分の主張を根拠づける言葉、文章を「自分の言葉でまとめる」

引用の目的

自分の主張と他者の主張を区別すること→盗作しないために

注意

以下は一例に過ぎないので、教員によって個別の指示がある場合はそれに従うこと

いずれにしても、一貫した方法で示すことが大事

引用 or パラフレーズ × 引用の形式（脚注 or 直後）＝ 4 通り

		引用	パラフレ
形式	脚注	→A	→B
	直後	→C	→D

例：小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

A）引用 × 脚注

レポート、論文のテーマ設定に関して、小笠原は次のように述べている。

論文作成作業は、テーマ（追及問題のコンセプト）を絞り込む作業でもある。それだけにこのテーマの設定が、いちばん難しい。何について書くか、どんな論文題名にするか、どんな主張をするのか、といったことが最初からわかっている人はあまりいない。たまにもう決まっているという学生もいるが、そういう学生に限って、執筆を始めるとすぐにつまずいてテーマを変えたがる[1]。

このように、論文の主眼たるテーマを安直に決めることを批判している。そこで本章では、論文のテーマをどのように決めていくのかについて、主に学部学生を対象として考察していきたい。

（略）

[1] 小笠原（2002), p. 101.

上下、左右を本文よりも 1-2 文字落として、引用文と分かるようにする。

著者名、刊行年、ページを脚注で示して、どの資料を参照しているかを示す。同じ著者の同じ刊行年の資料が複数ある場合、2002a, 2002b のように示す。

B）パラフレ × 脚注

レポート、論文のテーマ設定に関して小笠原は、「論文作成作業は、テーマ、すなわち、追及問題のコンセプトを絞り込む作業でもあり、テーマ設定こそが最も難しい」と述べている[1]。

（略）

[1] 小笠原（2002), p. 101.

パラフレーズ部分を「　」で括り、脚注で引用元を示す。

C）引用 × 直後

レポート、論文のテーマ設定に関して、小笠原は次のように述べている。

論文作成作業は、テーマ（追及問題のコンセプト）を絞り込む作業でもある。それだけにこのテーマの設定が、いちばん難しい。何について書くか、どんな論文題名にするか、どんな主張をするのか、といったことが最初からわかっている人はあまりいない。たまにもう決まっているという学生もいるが、そういう学生に限って、執筆を始めるとすぐにつまずいてテーマを変えたがる。［小笠原（2002) , p. 101.］

このように、論文の主眼たるテーマを安直に決めることを批判
そこで本章では、論文のテーマをどのように決めていくのかについて、主に学部学生を対象として考察していきたい。

上下、左右を本文よりも1~2文字落として、引用文と分かるようにする。

引用文の直後に著者名、刊行年、ページを記し、どの参考文献を参照しているかを示す。同じ著者の同じ刊行年の資料が複数ある場合、2002a, 2002b のように示す。

D）パラフレ × 直後

レポート、論文のテーマ設定に関して小笠原は、「論文作成作業は、テーマ、すなわち、追及問題のコンセプトを絞り込む作業でもあり、テーマ設定こそが最も難しい」［小笠原（2002), p. 101.］と述べている。

パラフレーズ部分を「　」で括り、直後に引用元を